

令和5年度 地方創生交付金活用事業一覧

事業NO.	事業名	
1	官民連携による空き家開拓と移住者マッチング事業	下諏訪町単独
	空き家物件の流通における様々な課題に対して、民間事業者や地域住民と連携しながら取り組み、移住希望者が「すぐに使える空き物件」の増加を図る。 ①地域住民を巻き込んだ空き家情報収集のネットワーク構築 ②空き家情報発信のプラットフォームの構築 ③移住相談窓口の体制強化	
2	下諏訪町健康ステーション整備計画	※令和2年度ハード整備実施
	旧下諏訪町漕艇庫を改修し、利用者それぞれの目的や体力等に沿った運動を実践できる場として整備する。さらに当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(個人)」を構築し、施設利用者の満足度を向上させるほか、サポーター(個人)は、多様な働き方を行う意欲のある方々に担っていただくことで、新たな働き方創出の場とする。	
3	下諏訪町健康フィールド整備計画	※令和2年度ハード整備実施
	一般財団法人諏訪自動車協会が所有する車検場を改修し、「全天候・全世代」に対応できる運動場として整備する。当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(複数)」を構築し、教室参加者の満足度を向上させるとともに、サポーター(複数)を担う人材にとっては、多様な働き方を行う意欲のある住民にすることで、新たな働き方創出の場とする。	
4	下諏訪町「諏訪湖活用拠点」施設整備計画	※令和元年度ハード整備実施
	諏訪湖でできるボートやカヌー等の体験型観光プログラムを扱う上での拠点となる施設を整備する。 【整備後は下記の事業を行う予定】 - 観光面での活用 - 体験プログラムを販売、「遊べる観光地」としての地域のブランド力の向上、イベントの誘致と開催による交流人口の拡大等 - 健康面での活用 - 各種運動プログラムの開催による地域住民の健康寿命の延伸 - 防災面での活用 - 湖上を船で物資や人を搬送するための水上防災拠点として機能を併せ持つ施設としての活用	

事業名	官民連携による空き家開拓と移住者マッチング事業					
担当課	産業振興課 移住定住促進室		連携自治体	下諏訪町単独事業		
事業の概要・目的	空き家物件の流通における様々な課題に対して、民間事業者や地域住民と連携しながら取り組み、移住希望者が「すぐに使える空き物件」の増加を図る。 ①地域住民を巻き込んだ空き家情報収集のネットワーク構築 ②空き家情報発信のプラットフォームの構築 ③移住相談窓口の体制強化					
総事業費 ※交付金以外含	9,856,000	交付金決定額	4,928,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	4,928,000円	
経費内容	空き家活用アドバイザー謝礼 60,000円					
	移住定住促進支援業務委託料 4,796,000円					
	移住総合サイト(空き家情報バンク)制作業務委託料 5,000,000円					
	合計 9,856,000円					
総合戦略での位置付け	基本目標	【ひとの流れ】町の資源や価値などの魅力を想像し、多様な人材が交流しながら、下諏訪町への新たなひとの流れをつくる				
	施策	目的意識を持って訪れる人にとって魅力的な環境を創造				
	重要業績評価指標(KPI)	社会動態(転入及び転出)による異動人口				
	実績値 R7年度目標値▲90人	R元年度(基準値) ▲101.2人	R3年度 ▲23人	R4年度 ▲2人	R5年度 ▲32	R6年度

事業詳細	
①	地域住民を巻き込んだ空き家情報収集のネットワーク構築
	目的・内容 まちづくりに意欲のある地域住民等と共に、町全体の空き家情報を包括的に収集する仕組みを構築する。また、収集した情報をもとに空き家を「すぐ使える空き家」とするため、専門性が高い不動産取引に向けて民間事業者と連携を進める。
	実施状況 新たに「空き家等片づけ補助金」や空き家を仲介した不動産事業者へのインセンティブとして「空き家仲介補助金」等、空き家の流通促進に向けた仕組みを構築し、地域住民や民間事業者と連携して、空き家啓発チラシの配布、補助制度の案内、ヒアリング等を通じて空き家所有者及び不動産事業者に対して継続的なアプローチを実施した。
	効果・成果 前年度比で空き家情報バンク登録数260%を達成。令和5年度の目標値を大幅に上回るとともに空き家情報バンク登録数の過去最高を更新した。
②	空き家情報発信のプラットフォームの構築
	目的・内容 空き家情報バンクのホームページを、移住者視点でリニューアルし、民間事業者と連携しながら情報発信を行う。また、これまで下諏訪町で実績のあるリノベーション物件を情報としてまとめ、空き家情報バンクホームページを通して可視化して発信することで、移住希望者が空き家活用のイメージを持ちやすいようにする。
	実施状況 令和6年3月に空き家情報バンクを大々的にリニューアルを行い、空き家情報バンクを組み込んだ移住ポータルサイト「くぐると下諏訪」を令和6年3月に開設した。
	効果・成果 物件情報が契約種別、エリア、物件種別別に検索できるようになり、物件を探している方にとってより見やすく、利便性が大幅に向上した。また、これまで分散していた町の特徴や移住に関する補助制度の紹介、イベント情報等、移住希望者が知りたい様々な情報をまとめて発信することが可能となり、空き家情報バンクのリニューアル前後における1月当たりのサイトアクセス数の比較では165%増と大幅に増加している。
③	移住相談窓口の体制強化
	目的・内容 民間事業者と連携して相談窓口を運営することで、物件情報に限らず、移住者や民間の視点で様々な情報を発信し、物件と移住希望者とのマッチングをはじめ移住先として当町を選んでいただける環境を整える。
	実施状況 民間事業者とは週1～2回の定例会議をはじめ、関係者間で常に情報共有を行える連絡体制を構築し、密に連携を図りながら空き家啓発チラシの作成・全戸配布や移住イベントの実施等、町内外に向けて情報発信の強化を行った。
	効果・成果 これまで町だけで行ってきた移住定住促進に民間視点での移住創業促進のための施策(現地ツアーや都心でのイベント実施、地域との接点づくり)を官民連携で取組み、空き家情報バンクの成約数は前年度対比で約2倍の増、過去最高を更新した。現地ツアーや交流会等様々なイベント実施を通じて、移住希望者にとってより魅力的な移住イベントのあり方についても効果検証を行うことができた。

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	R5目標値	R5実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
町が紹介した空き家に移住者が居住した件数(件)	16	14	未達成	空き家の流通は大きく実績を伸ばしたが、移住者マッチングについては一定の期間を要することから目標未達成となった。
空き物件の掘り起こしを行い、下諏訪町空き家情報バンクに登録した物件数(件)	27	39	達成	官民連携で空き家の掘り起こしに取り組み目標を大きく上回る実績となった。
町が紹介した空き物件を活用した開業件数(件)	3	3	達成	官民連携で空き家の掘り起こしに取り組み目標を達成した。

事業期間における本事業における重要業績評価指標 (KPI)		R5	R6	R7	合計	達成状況
町が紹介した空き家に移住者が居住した件数(件)	目標値	16	25	前年度実績+13	41	
	実績値	14			14	
空き物件の掘り起こしを行い、下諏訪町空き家情報バンクに登録した物件数(件)	目標値	27	48	前年度実績+21	75	
	実績値	39			39	
町が紹介した空き物件を活用した開業件数(件)	目標値	3	5	前年度実績+2	8	
	実績値	3			3	

事業効果	②地方創生に相当程度効果があつた
理由	官民連携で移住者の受け皿となる空き家の掘り起こしや、新たな移住総合サイトの開設による情報発信の強化の相乗効果で一年目にして大きな成果をあげることができた。一部目標未達成であつた項目もあるが、効果検証を踏まえて、引き続き効果的かつ継続的な取り組みを行っていく必要があると考える。

<事業効果>

- ①地方創生に非常に効果的であつた 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- ②地方創生に相当程度効果があつた 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- ③地方創生に効果があつた 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- ④地方創生に対して効果がなかった 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとはいえないような場合

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	一年目に構築した土台(官民連携の連携体制や移住総合サイト)を基に、町内外に向けた情報発信及び関係団体との更なる連携強化を図り、事業を推進する。

<今後の方針>

- ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ②事業の発展(事業が効果的であつたことから取組の追加等更に発展させる)
- ③事業の改善(事業の効果が不十分であつたことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標 (KPI) 達成に (有効であつた) / 有効とはいえない
外部有識者からの意見	・外部への情報発信を積極的に行い、二年目以降も実績が上がることを期待する。 ・もっと積極的に既移住者との交流等、移住希望者に前向きになるような事業も必要では。 ・仲介業者へインセンティブを設けているが、それが利用者の経済的負担につながっているか不明。 ・空き家バンクへの登録件数が少ないように感じた。

事業No. 1 官民連携による空き家開拓と移住者マッチング事業



DIYイベント



移住相談

下諏訪町移住ポータルサイト
くぐると下諏訪

暮らしの風景 まちを知る 人を知る リノベの実例 家を探す 仕事を探す



下諏訪町の紹介
まちを知る
移住する前に知りたい下諏訪町の生活情報をまとめました。



移住ポータルサイト



空き家見学会

事業名		下諏訪町健康ステーション整備計画						
担当課		教育こども課 健康サポート係		連携自治体	下諏訪町単独事業			
事業の概要・目的		旧下諏訪町漕艇庫を改修し、利用者それぞれの目的や体力等に沿った運動を実践できる場として整備する。更に、施設利用者が行う個々のトレーニングを多様な指導者がパーソナルトレーナーとして指導できるよう、当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(個人)」を構築し、施設利用者のニーズに沿った指導ができる体制を構築することで、施設利用者の満足度を向上させるほか、サポーター(個人)は将来的にスポーツ関係事業の起業を目指す方々や、働き方改革により「ダブルワーク」や「空き時間の活用」等多様な働き方を行う意欲のある方々に担っていただくことで、新たな働き方創出の場とする。						
拠点整備費	総事業費 ※交付金以外含	138,065,833円	交付金決定額	67,883,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	67,702,926円		
	経費内容	整備工事費	R2年度整備実施			109,635,044円		
		整備工事監理費				1,684,936円		
		効果促進事業費(トレーニング機器類の整備費)				26,745,853円		
		合計					138,065,833円	
運営費	総額	3,669,438円	施設運営費	3,669,238円	イベント等開催費			
	経費内容	健康運動施設(健康ステーション)管理費					3,669,438円	
総合戦略での位置付け		基本目標	【活性化】住民が安全・安心に暮らし、まちの宝を活かすことによって魅力を育み、ひとが集うまちをつくる					
		施策	健康長寿のまちづくり					
		重要業績評価指標(KPI)	健康スポーツゾーンを活用した講座回数及び参加者数					
		実績値	R元年度(基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(最終)
		R7年度目標値 12回/160人	12回/145.2人	12回/92人	12回/89人	12回/100人		

事業詳細

①	健康ステーション管理運営事業	
	目的・内容	健康ステーションを適正に管理し、町民の自発的な健康づくりに寄与する施設として運営する。
	実施状況	利用率を向上させるため利用者の要望を取り入れ、開館時間を1時間延長するとともに、定期利用券(3ヶ月、6カ月)を導入した。
	効果・成果	開館時間の延長により、40～60代を中心に夜間の利用者が増加した。 また、定期券の導入により、個人の利用頻度が増え、結果的に延べ利用者数が前年度に比べ倍増した。
②	健康ステーション利用促進事業	
	目的・内容	健康ステーション利用者の更なる獲得を目指し、施設の利用促進に繋がる各種事業を実施する。
	実施状況	未利用者に施設に足を運んでもらい、新規登録の機会としていただくため、無料マシン体験会を毎月2回実施した。 また、施設利用者の定期的、継続的な利用を促すため、体組成測定会を隔月で開催した。
	効果・成果	令和5年度で412人が登録し、累計利用登録が1,654人(町内1,331人・町外323人)となった。 また、定期券導入の効果も伴い、習慣的に施設を利用する利用者が増えている。
③	健康サポーター活用事業	
	目的・内容	専門的な知識・経験を持った「健康サポーター」の効果的な運用により、町民の健康増進に関する取り組みを推進するとともに、健康サポーターの働き方改革、活躍の場の創出に繋げる。
	実施状況	引き続き健康サポーターの募集を行い、登録者数は20人となった。(健康ステーションを中心に活動しているのは4人) また、利用者へのマシンの使用法の案内を健康サポーターに担当してもらうなど、施設の運営を補助してもらった。
	効果・成果	健康サポーターから利用者への声掛け、トレーニング方法のアドバイスなどを行ってもらった結果、効果的な運動法などについて気軽に相談できると好評であった。

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	R5目標値	R5実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
下諏訪町健康ステーション利用者数(人)	6,974	13,447	達成	
下諏訪町健康サポーター(個人)登録者数(人)	6	3	未達成	個人トレーニングに関する知識・経験を有する方の登録が少なかつたため。
下諏訪町健康ステーションにおける健康サポーター(個人)によるサポートした件数(件)	57	59	達成	

事業期間における本事業における重要業績評価指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R5までの合計	R5までの達成状況	R6
下諏訪町健康ステーション利用者数(人)	目標値	0	3,000	4,856	6,974	14,830	達成	前年度実績+300
	実績値	0	4,256	6,674	13,447	24,377		
下諏訪町健康サポーター(個人)登録者数(人)	目標値	0	5	5	6	16	未達成	前年度実績+5
	実績値	0	0	1	3	4		
下諏訪町健康ステーションにおける健康サポーター(個人)によるサポートした件数(件)	目標値	0	50	50	57	157	未達成	前年度実績+50
	実績値	0	0	7	59	66		

事業効果	②地方創生に相当程度効果があった
理由	施設の利用登録者も順調に増え、延べ利用者数も目標値を大幅に上回る結果となった。 健康サポーター(個人)の登録については、募集方法等について課題が残ったものの、施設利用者の健康増進に寄与するといった面では、概ね地方創生に効果があったものと考える。

<事業効果>

- ①地方創生に非常に効果的であった 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- ②地方創生に相当程度効果があった 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- ③地方創生に効果があった 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- ④地方創生に対して効果がなかった 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとはいえないような場合

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	令和3年の供用開始以降、利用者数も順調に増加するなど施設も地域に定着しつつあり、一定の成果を得ることができた。利用者のニーズを把握して効果的な施設運営を心がけるなどし、計画期間内につき事業を継続する。

<今後の方針>

- ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ②事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
- ③事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標(KPI)達成に (有効であった) / 有効とはいえない
外部有識者からの意見	・利用者数が順調に増えてきているので、利用者からサポーターにステップアップしてくれる人も増えるのではないかと期待が持てる。 ・利用者数、サポート件数が増えている点は評価できる。 ・KPI達成には他市町村民の利用促進も必要だと思う。

事業No. 2 下諏訪町健康ステーション整備計画



健康ステーション利用状況①



健康ステーション利用状況②



健康サポーターの様子



体組成測定会

事業名		下諏訪町健康フィールド整備計画					
担当課		教育こども課 健康サポート係		連携自治体	下諏訪町単独事業		
事業の概要・目的		一般財団法人諏訪自動車協会が所有する車検場を改修し、「全天候・全世代」に対応できる運動場として整備する。 更に、健康教室等を指導するための当町独自の「下諏訪町健康サポーター制度(複数)」を構築し、教室参加者の満足度を向上させるとともに、サポーター(複数)を担う人材は、将来的にスポーツ関係事業の起業を目指す方や働き方改革で「ダブルワーク」「空き時間の活用」等多様な働き方を行う意欲のある住民にすることで、新たな働き方創出の場とする。					
拠点整備費	総事業費 ※交付金以外含	26,113,400円	交付金決定額	13,238,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	13,056,700円	
	経費内容	整備工事費			R2年度整備実施	20,414,709円	
		整備工事監理費				614,461円	
		効果促進事業費(駐車場整備費)				5,084,230円	
		合計				26,113,400円	
運営費	総額	4,084,692円	施設運営費	3,842,692円	イベント等開催費	242,000円	
	経費内容	健康運動施設(健康フィールド)管理費				3,842,692円	
		健康フィールド活用事業費				242,000円	
総合戦略での位置付け		基本目標	【活性化】住民が安全・安心に暮らし、まちの宝を活かすことによって魅力を育み、ひとが集うまちをつくる				
		施策	健康長寿のまちづくり				
		重要業績評価指標(KPI)	健康スポーツゾーンを活用した講座回数及び参加者数				
		実績値 R7年度目標値 12回/160人	R元年度(基準値) 12回/145.2人	R3年度 12回/92人	R4年度 12回/89人	R5年度 12回/100人	R6年度 R7年度(最終)

事業詳細		
①	健康フィールド管理運営事業	
	目的・内容	健康フィールドを適正に管理し、個人や団体の自主的な健康づくりの場、運動講座の会場等としての活用を図る。
	実施状況	屋内フィールドについては、利便性を向上させるため開館時間を延長し、一般利用に加え、夜間の運動講座の会場としても活用している。
	効果・成果	週末の団体利用を中心に利用者也増加し、目標値を上回った。
②	健康フィールド利用促進事業	
	目的・内容	健康フィールド利用者の更なる獲得を目指し、施設の利用促進に繋がる各種事業を実施する。
	実施状況	4月、6月、8月、10月に無料開放日を設け、施設を無料で利用してもらうとともに、健康サポーターなどによる運動講座を実施し、施設の周知と利用促進を図った。
	効果・成果	無料開放などイベントの実施や、運動教室の開催により、徐々に施設の知名度も上がり、利用者の増加につながっている。
③	健康サポーター活用事業	
	目的・内容	「健康サポーター制度」の効果的な運用により、町民の健康増進に関する取り組みを推進するとともに、健康サポーターの働き方改革・活躍の場の創出に繋げる。
	実施状況	引き続き健康サポーターの募集を行い、登録者数は20人となった。(健康フィールドを中心に活動しているのは16人) また、健康サポーターが講師を務める運動講座を延べ67回開催した。
	効果・成果	健康サポーターの協力により、多様な講座を開催することが可能となり、これまで講座に参加したことのない新たな受講者の獲得につながった。 また、個人開催の教室の会場として、健康フィールドを利用するサポーターが出るなど、施設の利用促進にもつながった。

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	R5目標値	R5実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
下諏訪町健康フィールド利用者数(人)	6,701	6,979	達成	
下諏訪町健康サポーター(複数)登録者数(人)	19	2	未達成	該当すると思われる、地域のフリーランスインストラクター等が少ない可能性があるが、引き続き周知を行っていく。
下諏訪町健康フィールドにおける健康サポーター(複数)によるサポートした件数(件)	110	67	未達成	健康サポーターの登録者数が当初の見込みより増えていないため。

事業期間における本事業における重要業績評価指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R5までの合計	R5までの達成状況	R6
下諏訪町健康フィールド利用者数(人)	目標値	0	3,000	3,273	6,701	12,974	達成	前年度実績+300
	実績値	0	2,673	6,401	6,979	16,053		
下諏訪町健康サポーター(複数)登録者数(人)	目標値	0	5	5	19	29	未達成	前年度実績+5
	実績値	0	0	14	2	16		
下諏訪町健康フィールドにおける健康サポーター(複数)によるサポートした件数(件)	目標値	0	50	50	110	210	未達成	前年度実績+50
	実績値	0	0	60	67	127		

事業効果	②地方創生に相当程度効果があった
理由	施設の利用者は年々増加し、今年度も目標値を上回る結果となった。 健康サポーターの登録者数を増やすことについては課題が残るものの、サポーターが講師を務める運動講座も定着しつつあり、毎回定員に達し好評である。 地域住民の健康増進に寄与するとともに、地域人材の活躍の場を創出するといった面では、概ね地方創生に効果があったものと考える。

<事業効果>

- ①地方創生に非常に効果的であった 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- ②地方創生に相当程度効果があった 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- ③地方創生に効果があった 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- ④地方創生に対して効果がなかった 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	令和3年の供用開始以降、徐々にではあるものの施設の周知も進み、利用者数も増加している。 課題である健康サポーターの募集にも引き続き力を入れ、一般利用の促進とともに、運動講座等での利活用も進めるなどし、計画期間内につき事業を継続する。

<今後の方針>

- ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ②事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
- ③事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標(KPI)達成に (有効であった) / 有効とはいえない
外部有識者からの意見	・利用者数、サポート件数が増えている点は評価できる。 ・無料開放日の設定、健康サポーターの導入については評価できる。 ・利用者数はコロナ感染時期を除き増えているようだが、競技人口の頭打ちがみられるので県内の利用者を増やす必要がある。

事業No. 3 下諏訪町健康フィールド整備計画



運動教室①



運動教室②



運動教室③



運動教室④

事業名		下諏訪町「諏訪湖活用拠点」施設整備計画						
担当課		教育こども課 スポーツ振興係		連携自治体		下諏訪町単独事業		
事業の概要・目的		諏訪湖を活用した水上スポーツの拠点として、ボートやカヌー等の体験型観光プログラムを扱う上での拠点となる施設を整備する。また、整備後は、観光客の滞在時間の拡大や観光消費額の増大を目的とする観光面での活用、地域住民の健康寿命の延伸を図る健康面での活用、大規模災害時に湖上を船で物資や人を搬送するための水上防災拠点としての防災面での活用を推進していく。						
拠点整備費	総事業費 ※交付金以外含	207,180,421円	交付金決定額	122,694,000円	交付金充当額 (交付金確定額)	103,590,210円		
	経費内容	諏訪湖活用拠点建築工事費			203,371,245円			
		諏訪湖活用拠点建築工事監理費			R元年度整備実施 3,809,176円			
		合計			207,180,421円			
運営費	総額	5,273,298円	施設運営費	5,273,298円	イベント等開催費			
	経費内容	施設運営管理費用			2,853,298円			
		ローイングパークコース設置委託料			2,420,000円			
総合戦略での位置付け		基本目標	【人の流れ】町の資源や価値などの魅力を創造し、多様な人材が交流しながら、下諏訪町への新たなひとの流れをつくる					
		施策	まちの魅力を活かした過ごし方やできることの発信					
		重要業績評価指数(KPI)	観光消費額(1人あたりの消費単価)					
		実績値 R7年度目標値 3,000円	R元年度(基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(最終)
			2,343円	2,364円	2,744円	2,806円		

事業詳細							
企業研修開催事業							
①	<table><tr><td>目的・内容</td><td>諏訪湖で行う体験プログラム、ボート体験をチームビルディングに活用する企業研修を実施する。</td></tr><tr><td>実施状況</td><td>(1)企業研修(ボート体験)(5/17) 参加者 43人(ものづくり推進機構) (2)親と子のボート教室(8/14) 参加者 41人(下諏訪町漕艇協会)</td></tr><tr><td>効果・成果</td><td>水上スポーツは、天候に左右されることも多いが、各種団体等が取り組む体験会が開催されることで、諏訪湖を活用した競技等に触れることができた。また拠点施設は、ボート競技者ほか、各種教室への参加等を切っ掛けに始められたウォーキングやランニングなど、取り組む方々の地域拠点として定着している。さらに全国市町村交流レガッタ大会をはじめ毎年大規模なボート競技の場として活用されるなど、認知度も上がっているほか、他競技の施設利用実績が増加している。</td></tr></table>	目的・内容	諏訪湖で行う体験プログラム、ボート体験をチームビルディングに活用する企業研修を実施する。	実施状況	(1)企業研修(ボート体験)(5/17) 参加者 43人(ものづくり推進機構) (2)親と子のボート教室(8/14) 参加者 41人(下諏訪町漕艇協会)	効果・成果	水上スポーツは、天候に左右されることも多いが、各種団体等が取り組む体験会が開催されることで、諏訪湖を活用した競技等に触れることができた。また拠点施設は、ボート競技者ほか、各種教室への参加等を切っ掛けに始められたウォーキングやランニングなど、取り組む方々の地域拠点として定着している。さらに全国市町村交流レガッタ大会をはじめ毎年大規模なボート競技の場として活用されるなど、認知度も上がっているほか、他競技の施設利用実績が増加している。
目的・内容	諏訪湖で行う体験プログラム、ボート体験をチームビルディングに活用する企業研修を実施する。						
実施状況	(1)企業研修(ボート体験)(5/17) 参加者 43人(ものづくり推進機構) (2)親と子のボート教室(8/14) 参加者 41人(下諏訪町漕艇協会)						
効果・成果	水上スポーツは、天候に左右されることも多いが、各種団体等が取り組む体験会が開催されることで、諏訪湖を活用した競技等に触れることができた。また拠点施設は、ボート競技者ほか、各種教室への参加等を切っ掛けに始められたウォーキングやランニングなど、取り組む方々の地域拠点として定着している。さらに全国市町村交流レガッタ大会をはじめ毎年大規模なボート競技の場として活用されるなど、認知度も上がっているほか、他競技の施設利用実績が増加している。						
②	<table><tr><td>目的・内容</td><td></td></tr><tr><td>実施状況</td><td></td></tr><tr><td>効果・成果</td><td></td></tr></table>	目的・内容		実施状況		効果・成果	
目的・内容							
実施状況							
効果・成果							
③	<table><tr><td>目的・内容</td><td></td></tr><tr><td>実施状況</td><td></td></tr><tr><td>効果・成果</td><td></td></tr></table>	目的・内容		実施状況		効果・成果	
目的・内容							
実施状況							
効果・成果							

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	R5目標値	R5実績値	達成状況	状況の説明(未達成、実績値なしの場合、その理由)
諏訪湖で行うことができる体験プログラムの参加者数(人)	130	0	未達成	長野県ローイング協会等によるボート体験が企画されたが、各種大会日程や悪天候等により実施できなかった。
ボート体験をチームビルディングに活用する企業研修の参加者数(人)	200	0	未達成	町事業として実施はないが、令和4年度からものづくり推進機構によるボート体験を活用した新入職員研修が実施されている。
拠点を活用した健康増進教室の参加者数(人)	112	75	未達成	事業実績はあるものの参加者数について目標値を達成できなかったもの

事業期間における本事業における重要業績評価指標 (KPI)		R1	R2	R3	R4	R5	事業全体合計	事業全体達成状況
諏訪湖で行うことができる体験プログラムの参加者数(人)	目標値	0	700	300	138	130	1,268	未達成
	実績値	0	0	38	30	0	68	
ボート体験をチームビルディングに活用する企業研修の参加者数(人)	目標値	0	200	200	200	200	800	未達成
	実績値	0	0	0	0	0	0	
拠点を活用した健康増進教室の参加者数(人)	目標値	0	100	100	163	160	523	未達成
	実績値	0	175	63	60	75	373	

事業効果	③地方創生に効果があった
理由	KPIの対象となる事業としての達成状況は著しくないものの、整備された拠点施設を活用した取り組みは多く実践されたことから地方創生に一定の効果があったと考える。日常的な活用として、足湯を含めた施設一帯はボート競技者をはじめ、ウォーキングやランニングなどに取り組む方々の地域拠点として定着している。また、全国市町村交流レガッタ大会の開催により全国から900人以上の来訪があり、周辺施設を含めた利活用がされるなど、毎年大規模なボート競技の場として活用されるなど、認知度も全国的に上がっている。またトライアスロンや当該施設を活用した効果検証イベントなど複合的な施設利用実績が増加していることから一定の成果があると考ええる。

<事業効果>

- ①地方創生に非常に効果的であった 例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- ②地方創生に相当程度効果があった 例:一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- ③地方創生に効果があった 例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- ④地方創生に対して効果がなかった 例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合

今後の方針	①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
今後の方針の内容(発展や改善、見直しの具体的な内容)	前述のとおり、KPIに係る事業以外で一定の成果を上げ、認知度・利用度は良好であるため、KPI達成に向けた事業について、必要に応じて手法を改善しつつ、目標値を達成できるよう継続した取り組みを実施していく。

<今後の方針>

- ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)
- ②事業の発展(事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
- ③事業の改善(事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または、行った))
- ④事業の中止(継続的な事業実施を予定していたが中止する(または、した))
- ⑤事業の終了(当初予定通り事業を終了する(または、した))

外部有識者からの評価	本事業は総合戦略の重要業績評価指標(KPI)達成に (有効であった) / 有効とはいえない
外部有識者からの意見	・認知度の向上等により、目標値の達成を期待する。 ・諏訪湖の観光消費は赤砂崎の整備でそれなりの効果があったと思われる。 ・町の特色ある施設としてローイングパークやAQUA未来の設置自体は評価するが、健康増進事業や滞在型観光振興との関連性が不明確で現時点では評価できない。

事業No. 4 下諏訪町「諏訪湖活用拠点」施設整備計画



親と子のボート教室①



親と子のボート教室②



親と子のボート教室③